

薬学部における EBM 教育の現状

○佐々木 順一¹, 北澤 京子², 中山 健夫²

¹広島国際大薬, ²京大院医

薬学部・薬科大学における Evidence-based Medicine (EBM) の教育実態を把握し、EBM 教育に対して感じている課題を明らかにする目的で、アンケート調査を実施した。2015 年 8 月に調査対象者 268 名に調査票を郵送し、調査対象以外の教員 1 名を含む 192 名から回答を得た (回答率 71.3%)。調査の内容は、(1) 担当教員の特徴、(2) EBM 教育を実施している授業の概要、(3) 具体的な教育内容 (キーワード 50 項目)、(4) 自己評価と教育上の課題とした。教育内容は大学間でかなり異なっており、「ランダム化比較試験」「前向きコホート研究」「後ろ向きコホート研究」「症例対照研究」「相対リスクと絶対リスク」「オッズ、オッズ比」といったモデルコア・カリキュラムに載っている用語は多くの大学で教育を行っていた半面、「PROBE 法」「クラスターランダム化比較試験」「ネットワーク・メタアナリシス」「サブグループ解析」「ROC 曲線」「異質性検定」「GRADE システム」といった、載っていない項目についてはほとんど教えられていなかった。また、教育内容に充実していると感じているのは回答者の 3 割にとどまっており、課題として、時間不足、演習・実習が行えない、教員の意識・スキル不足、適切な教材がない、学生の学力不足などが挙げられた。本シンポジウムでは、大学での EBM 教育を充実させるための方策およびこれまでの取り組みについて紹介したい。